

分かれると快感!

かい
Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

ぶし せいりやく の りゆう
武士が勢力を伸ばした理由は?

平安時代ごろに出現した武士は、11世紀半ばから12世紀半ばごろにかけて、勢力を伸ばしていきました。以下の二つの出来事における武士の役割の違いに触れながら、武士が勢力を伸ばし、政治に力を及ぼすようになった理由を説明しなさい。

A 11世紀半ばごろ、東北地方で起きた争いを、源氏が治めた

B 12世紀半ばごろ、京都で起きた争いに、平氏・源氏がかかわった

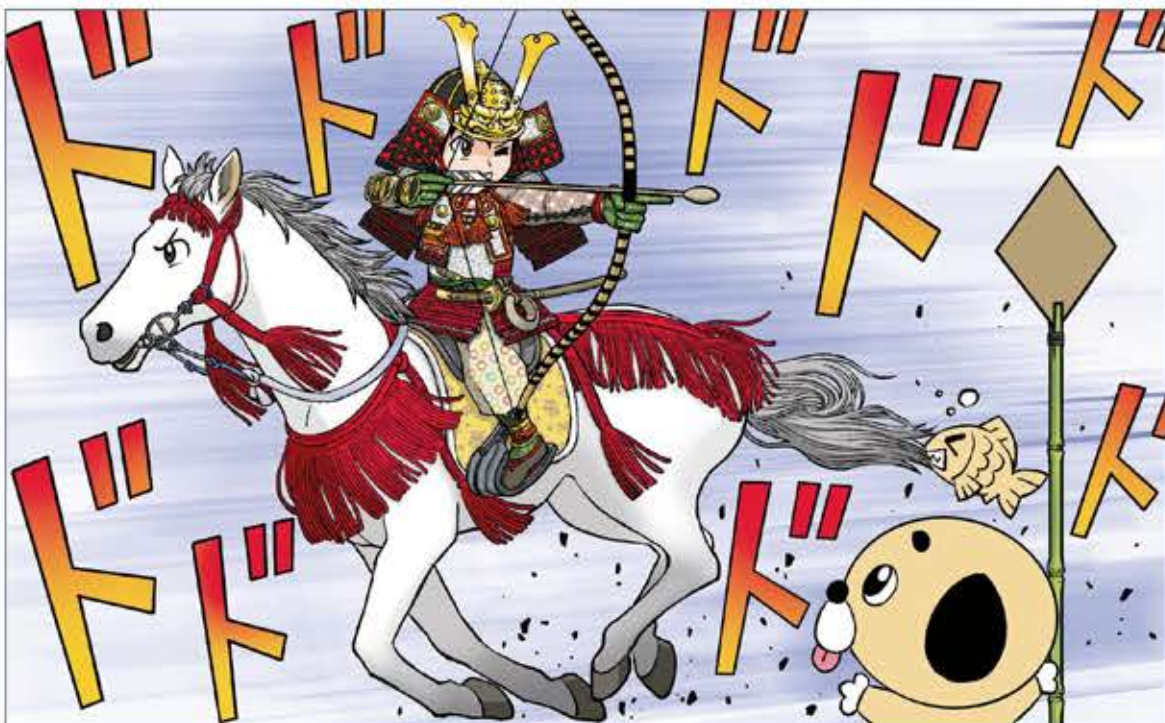
歴史が好きな人の中には、平氏や源氏、戦国時代や幕末期など、武士が活躍する時代に興味がある方が多いかもしれません。大河ドラマや時代劇でも、武士が活躍する物語が多くありますね。今回は、武士とはそもそもどのような人々だったのか、そしてどのように時代の中心人物となっていたのかを、ひもといていきましょう。

武士のおこり

武士や兵と呼ばれる人々が登場したとされるのは、10世紀ごろのことと考えられています。武士というしっかりした身分があったのではなく、自分たちの生活を守るために武装したり、武芸を仕事にして政府に仕えたりした人々が始まりでした。

そのような人々が現れた背景には、中央政府の政治が大きく変わったことがありました。当初は、中国のように中央政府が全国の土地や人を支配する中央集権国家がめざされていましたが、手続きの複雑さなどから理想を徹底することができませんでした。そして10世紀ごろに、中央政府が全国の政治をすべてとりしきる従来の形から、地方のことは地方の役人に任せる形に、政治の方向性が大きく変わったのです。政府の軍隊もまた、もともとは各地の成年男性が集められて組織されていましたが、その負担を逃れる人々などが多く出てきたため、制度が失敗しかけていました。

中央政府の理想としてきた政治の在り方が崩れたことで、自分の身を自分で守ろうと武装する人々や、失敗しかけている政府軍の代わりに、武芸で政府に仕える人々が出てきたのです。



ぶし やく わり ちが ちゆう もく 武士の役割の違いに注目

次第に政治の中心へ

10世紀半ばには、関東と西日本で相次いで地方武士の反乱が起きました。いずれの反乱も一時は政府にも迫る勢いとなったのですが、それを抑えたのが、平氏と源氏の祖となる武士たちでした。この出来事により政府軍の弱体化と武士の実力が政府の貴族たちにも知られるようになり、その後、政府は積極的に武士を登用するようになりました。

11世紀半ばには、東北地方で豪族(その地方で有力な一族)の争いがあり、そこに源氏が介入し、争いを治めました。問題文のAのできごとにあたります。この出来事は、とくに政府とは関係のない私的な争いとして扱われましたが、源氏はこの出来事により、東日本への影響力をたしかなものにしていきました。

11世紀後半になると、天皇の位を譲った上皇が天皇の父として政治に大きな影響力を持つようになり、このような政治の在り方を院政といいます。院政の時代には、政府の内部での地位や役職よりも、上皇とのつながりが重視されるようになり、平氏や源氏も上皇や天皇に護衛として登用されることで、政治的な地位を高めていきました。その中で、Bの保元の乱・平治の乱という二つの争いがありました。Aの争いが中央政府とは関係のない地方の豪族の争いだったのに対し、Bの争いは中央政府の内部でだれが政治の主導権を握るかという争いでした。そして、この争いの勝敗を大きく左右したのが、平

氏・源氏の武士たちだったのです。これまでであれば、天皇などの皇族や貴族などで争われていた政府の内部の争いを、武士が解決したという点が、Bの争いが武士の力を決定づけた理由でした。

そして武士の世へ

平治の乱で勝利した平氏は、勢力をさらに拡大し、武士で初めて政治の中心を担うこととなります。平氏の政権はそれまでの皇族や貴族中心の政治のあり方を受け継いだものですが、その後、平氏との争いに勝利した源氏は、皇族・貴族たちの政治とは異なる政治のしくみを作りました。源氏が築いた武士の政権を鎌倉幕府と言います。ここから、江戸幕府が終わるまでの長きにわたる、武士の世が幕を開けるのです。

(Z会・河原井彩)

！
今回の
教訓

武士の世は、武士が何世代もかけて一歩一歩地位を築くことで、ようやく手に入れたものでした。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。